



ネイキッドが手がける「食×アート」体験

TREE by NAKED yoyogi park

クリエイティブカンパニー、ネイキッドがつくる体験型レストランである。レストランと言うより「アートギャラリーの中に“食”という題材を盛り込んだ、むしろアート体験の方にお金を払っていただく」空間であると、ネイキッド代表の村松亮太郎氏は解説する。

「LIFEにクリエイティビティを」がこのプロジェクトのテーマ。村松氏曰く「僕たちがやってきた表現は、これからもっと当たり前になって、人々の衣食住といった生活の中にも入っていくと考えます。“TREE by NAKED”は、ネイキッドの表現技術を食空間に落とし込んだ

試みです。彼らが手掛けてきたプロジェクトの多くは、アーティスティックで壮大なスケールゆえに、非日常の場でしか体験できないものであった。TREE by NAKEDは、彼らとその体験を人々のライフスタイルの中に創り出すという事業だと言える。



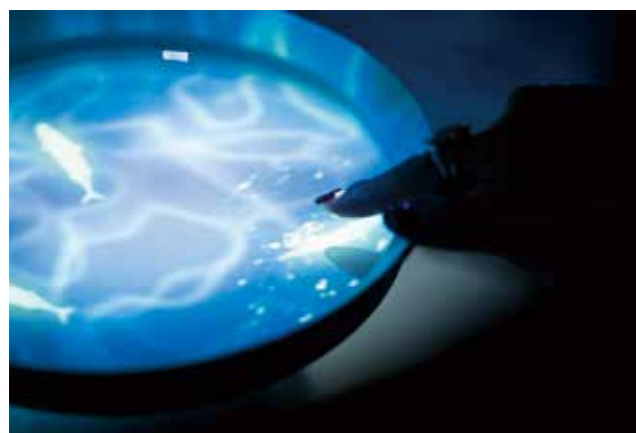
異世界へのトリップのような体験

その“体験”は完全予約制で、8名×1日2回、メニューは6皿のディナーコースのみというスペシャルな設定。「Scenes of Life」というストーリーに沿って、B1～2Fの3フロアを2時間かけて巡りながら、多彩な手法で演出されたアート空間を本格ディナーコースとともに楽しむ。

ストーリーは、1Fカウンターでのウェルカムタイムから始まり、いざ体験空間へ。最初に案内されるのは「WAITING SPACE」。真っ暗な部屋に一本の木がそびえている。食前酒で口を潤しながら、壁と木に投影される幻想的な映像とと

もに、これから始まる物語がプレゼンされる。そしていよいよ「Main zone」へ。海底をイメージさせる神秘的な空間で、8名のゲストが円卓を囲む。「Birth／誕生」(前菜)～「Spur／刺激」(前菜)～「Expansion／拡張」(魚料理)～「Phantasm／幻想」(肉料理)～「Unity／一体」(肉料理)という流れで、食事は進む。バーチャルと目の前の料理が融合したり、映像の魚が触ると飛び跳ねたり、皿やグラスに光の変化が現れたり、空間全体に花が咲き誇ったり…次から次へと展開される未体験の仕掛け。自分が食事をしているという感覚すら忘れ、ただただそのアーティスト

クな世界に浸ってしまう。食事が終わると2Fへ場所を移してデザートタイム。“森の実験室”がテーマの空間で、物語と連動するオリジナルスイーツを楽しむ、あつという間の2時間が終わる。この小さな空間に、VR・プロジェクションマッピング・インタラクティブ・スモーク・照明・音楽・美術造作、あらゆる演出技術が、ネイキッドの全力の表現力によって注ぎ込まれている。店に入った瞬間からネイキッドの世界に魅了され、食とアートのコラボレーションを全身で味わい尽くす。まさに異世界にトリップしているような、ほかでは決して味わえない贅沢な時間。



空間演出には、パナソニックの最新映像装置と照明器具を採用

TREE by NAKED yoyogi parkの世界観を表現するために、大切な役割を果たしたツールのひとつが、パナソニックのスポットライト型プロジェクター「Space Player」と店舗演出用LED照明「TOLSO」である。意匠性に富み、設置環境への対応が柔軟なSpace Playerは、28台が使われている。

「映像と空間を融合させてアーティストの世界観を表現したいとき、(普通のプロジェクターの)あの外観では厳しい。Space Playerのデザインはスポットライトのように空間に馴染むから、僕たちの世界観を壊さず使える。照明器具のように取り付けられるのも、映像の使い手からするととても大きなメリットです」(村松氏)

村松氏はまた、照明器具にもアーティストならではのこだわりを見せる。「光は質が大切。光には情緒という表現の役割があるので、スペックだけでは語れません。その点では、少し前までLEDはまったく使えないと感じていましたし、実際まだまだ発展途上だと思います」

そんな認識の中、この店に採用された「TOLSO」は、村松氏の求める“質の高い光”を追求した照明器具。配光ムラのない美しい光を実現し、余分な要素を徹底的にそぎ落としたシンプルなデザインも、この空間にマッチしている。

「これからは、LEDの光のクオリティに対する市場の要請が高まるでしょうね。「TOLSO」は、僕らや市場が求めるクオリティの領域に入ってきていると思います」

ネイキッドがつくるアーティストックな空間は、質の高い器材の表現力によって、より価値を高めている。



日常と非日常をつなげる場所

「最新のテクノロジーが、人々の暮らしの中にどう寄り添っていくのか。やっぱり気持ち良くないといけないと思うし、わかりやすくないといけないと思う。それを表現するためには、この場所が感覚的にいちばん表現できると思った」と村松氏は語る。

自然豊かな都会の公園に、ハイソサエティな素朴と洗練が同居する街。人々の暮らしという日常の中に、最新の演出技術を操るクリエイティブ集団が、未体験の感動空間をつくる。テクノロジーによってつくられるバーチャルな花や水や星の変化をこの空間で感じながら、窓の外には代々木公園のリアルな四季がある。このバーチャルとリアルは、店の外と中で隔絶されたものではなく、村松氏のロジカルなアートセンスによってみごとに融合している。都心の高層ビルでは表現できない日常と非日常の融合に、この空間の価値が見つけれられる。たとえば入り口には木が生えていて、曲線が美しい大きなカウンターが斜めに設置されている。「導線、ライン感を薄めて空間を柔らかく、やさしいイメージにしている」のだと村松氏は解説する。

「スタッフとお客さんの間に、あっちこっちという関係をつくりたくなかった。店の外と中という仕切りを決壊させて、目の前の公園と、このお店が繋がっているという連続性、融合感をつくりたかったんです」それはゲストの心から境界線を消す仕掛けであり、これによってゲストはリラックスしてこの体験に身を委ねることができる。

ネイキッドであり続けること

続けて村松氏は「モノを分けなくて考えてみたときに、既成概念や固定観念が壊れて、違う価値が自然と見えてくる」と言った。これこそがネイキッドの精神。

目的は、自分たちがおもしろいと思うことを実現させること。そこに技術や手法の規制はなく、あらゆる可能性を融合させることで、彼らは新しい価値を世の中に生み出してきた。「言語化されていない価値」(村松氏)とはよく言ったもので、そのフロンティア精神と、人間の創造性の一番特別な部分を前面に出し、作品がアーティストックであり続けることで、希代なクリエイティブカンパニーとしての評価を不動のものとしている。そんなネイキッドの全力がこの小さな空間に表現されている。体験すれば、新しい発見がたくさんあるだろう。

本誌 中田昌幸

Produce

村松 亮太郎 Ryotaro Muramatsu

アーティスト。クリエイティブカンパニーNAKED Inc.代表。大阪芸術大学客員教授。環境省が認定した日本一の星空の村「阿智村(あちむら)」阿智★昼神観光局のプランディングディレクター。TV／広告／MV／空間演出などジャンルを問わず活動。長編／短編作品と合わせて国際映画祭で48ノミネート&受賞している。



works DATA

プロデュース：NAKED 村松亮太郎
デザイン・設計：NAKED 村松亮太郎
協力：パナソニック エコソリューションズ社
技術協力：クリーク・アンド・リバー
運営協力：HOFF / across the counter & table
デザート監修：HUGO&VICTOR

〈使用資材〉 スポットライト型「Space PlayerR」(Panasonic) × 28台
店舗演出用LED照明「TOLSO」(Panasonic) × 70台などを採用